Foot Lights

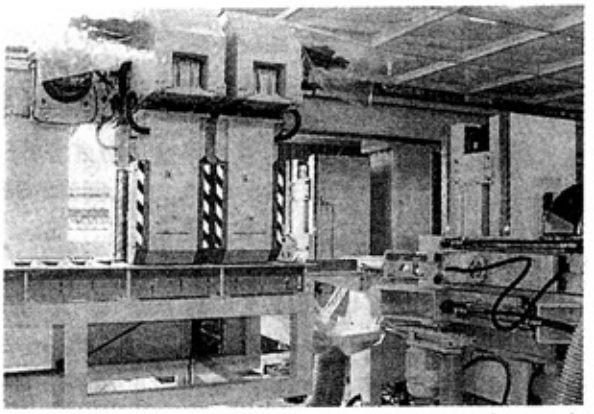
頑張れ木造住宅！

「オールムク・無節の家」に人気

宮大工の技術と高性能木工機

田辺建設
愛知県豊川市

寺社建築を得意とする㈲田辺建設（本社愛知県豊川市東名町、田辺勉社長）は、宮大工の技術を生かし「オールムク・無節」の最高級木造住宅を低価格で販売する事業を展開。三河や静岡西部の建設会社に依頼中。完成すれば「腕ききの宮大工以上の仕事が短時間でできる」という。



工場（同市三上町東畑）に高性能木材加工機＝写真㊧＝を導入し、機械化による工期短縮で大幅なコストダウンを実現した。また、生産能力のアップが見込まれることから、受注計画を十棟追加するなど、不況知らずの現状だ。

導入した機械は日高機械（石川県羽咋郡志賀町、日高明正社長）製の木材加工機。田辺建設では「スーパー加工機」と呼んでいる。寺社建築用の太角の加工や宮大工ならではの複雑な構造の継ぎ手・仕口の加工が可能。また、より繊細な加工の施せるCADソフト開発を京都の会社に依頼中。完成すれば「腕ききの宮大工以上の仕事が短時間でできる」という。

同社の住宅は、寺社建築の技術を生かした本格な和風建築の趣（おもむき）と徹底した健康志向が特長。「森林浴を年中わが家で」をコンセプトに、合板や集成材、クロスなどは使わず、壁は土壁、木材はムクにこだわり、ヒノキやスギなど出桁造りで、船べりから櫓を突き出すさまに似ていることからこう呼ばれる。このほか、ケヤキ銘木を使用した床の間、ムクのスギ天井板、彫刻欄間など、宮大工らしさを生かした本格的和風住宅となっている。

価格は、坪当たり五十万円・六十万円・七十万円コースの三タイプ。オール無節でこの価格が実現できる理由は、木材を丸太で購入、建具類も自社で製造していることなどが挙げられる。製材は提携工場に依頼するが、最適な木取りを田辺社長自ら指示。買った丸太を無駄なく使い、「見えない部分まで無節を使っても材料費は黒字」だという。

しかし、施工については職人の人工（にんく）賃で赤字となるケースが相次いだ。生産性を高めるため、工場の休憩時間や従業員の勤務シフトを組み直すなどの工夫や、筋かいと壁のユニット部材を工場で製造し現場で組み立てる「田辺式壁工法」などで工期短縮に努め、一昨年に比べて人工賃の赤字は三分の一程度にまで縮小したが、それでも解消しなかった。

その解決策として、今回導入に踏み切ったのがこの「スーパー加工機」。ほかに彫刻用の機械も導入し、合わせて一億二千万円の設備投資だが、大幅な工期短縮で人工賃の黒字転換が確実なうえ、受注状況が順調なことなどから、取引先の大手都市銀行から無担保で融資を受けた。

田辺社長＝写真㊨＝は呉服屋から建築業へと転進した変わりダネ。「孫に住んでもらいたい健康で丈夫な木の家を、日本中に作りたい」と住宅づくりに意欲を見せ、近年不振の役物の販売戦略について、「上層（木の良さを分かっている層）の客をターゲットに、値打ちに提供すれば売れる」と自信をのぞかせる。

「木材は工夫次第、売り方次第でまだまだ儲かる。木材が売れないと森林が荒れる。次世代に健全な森林を残すため、木材業界の皆さん、元気を出しましょう」と業界にエールを贈る。

動きの悪さを反映して当用万円と前回市を上回る結果

されるが少ないものの落ち着いた